

「イエスの復活は作り話なのか？」

□イエス・キリストとは、どういう人か

イエスは、今から約2千年前、紀元前7年頃、イスラエルのベツレヘムで生まれた。当時のイスラエルは、ローマ帝国の支配下にあったが、旧約聖書の預言では、キリストの出現が近いとされ、イスラエルの民衆はキリストが現れることを待ち望んでいた。「キリスト」とは、イスラエルの王、それも永遠に生きて地上に正義と平和の世界をもたらす王を意味する。

イエスは33歳の頃に、自分はキリストであると宣言し、3年半の間イスラエルの国内を巡って、キリストであることを示す数多くの奇跡を行った。ところが、イスラエルの指導者たちはイエスをキリストとは認めず、紀元30年4月7日、無実の罪でイエスをローマ総督に訴え、十字架にかけた。イエスは十字架の上で死んで葬られた。

しかし、イエスは三日目によみがえった。それも、単なる蘇生ではなく、二度と死ぬことのない体をもって復活した。そして、復活から40日後、弟子たちが見ている中を天に上った。

イエスの復活は、まさにイエスがキリストであることの証しである。永遠に生きる王であり、やがてこの地上に帰り、この地上に正義と平和をもたらしてくださるお方である。

また、聖書は、イエスの十字架上の死が全人類の罪の身代わりであったと教えている。そのことを信じるならば、私たちは罪を赦され、永遠の死から救い出され、永遠のいのちを受け取ることができる。イエスの復活は、永遠のいのちが確かにあるという証明である。

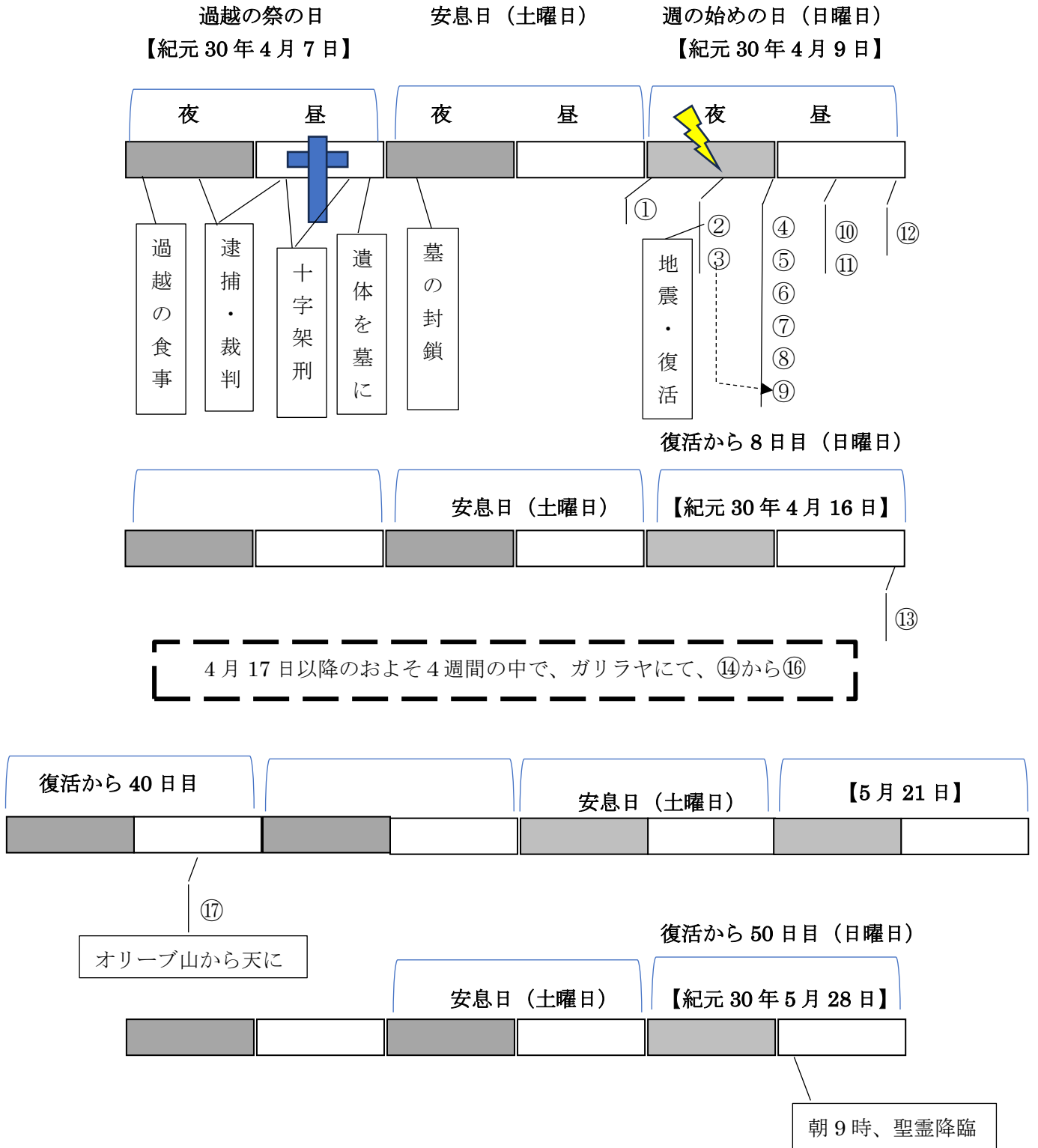
□アウトライン

イエスの復活が本当にあったのか、それとも弟子たちによる作り話なのか？

この点について、出来事の経緯を事実に沿って見る。

《図表》	17の出来事の一覧	2
A)	イエスの葬り	3
B)	遺体処理の追加のための準備	3
C)	墓の封鎖	4
D)	イエスの復活の日：12の出来事	4
E)	【復活の日からちょうど一週間後】から【復活から40日目】まで	12
F)	結論	12
G)	新約聖書が記す「最も大切なこと」	13
H)	勧め	13
	参考文献	13

《図表》 十字架刑から3日目に復活、復活から40日目までの17の出来事の一覧
丸数字は、3ページから11ページに記載された17の出来事の番号



A) イエスの葬り

紀元 30 年 4 月 7 日金曜日、イエスは十字架の上で死んで、墓に葬られた。

マタイ 27:54~56 百人隊長や一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」

また、そこには大勢の女たちがいて、遠くから見ていた。ガリラヤからイエスについて来て仕えていた人たちである。その中にはマグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子たちの母（サロメ）がいた。

マルコ 15:40~41 女たちも遠くから見ていたが、その中には、マグダラのマリアと、小ヤコブとヨセの母マリアと、サロメがいた。イエスがガリラヤにおられたときに、イエスに従って仕えていた人たちであった。このほかにも、イエスと一緒にエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。

マタイ 27:57~61 夕方になり、アリマタヤ出身で金持ちの、ヨセフという名の人が来た。彼自身もイエスの弟子になっていた。この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。そこでピラトは渡すように命じた。ヨセフはからだを受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入口に大きな石を転がしておいて、立ち去った。

マグダラのマリアともう一人のマリアはそこにいて、墓の方を向いて座っていた。

マルコ 15:47 マグダラのマリアとヨセの母マリアは、イエスがどこに納められるか、よく見ていた。

ルカ 23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。

B) 遺体処理の追加のための準備

アリマタヤのヨセフがイエスの遺体を墓に納めたとき、時間が限られていたので、遺体の処理が十分ではなかったようである。見ていた女たちは、追加の処理が必要だと思っていた。自分たちの手持ちの香料を準備し、不足分は安息日が明けたら買うことにした。

ルカ 23:56 それから、戻って香料と香油を用意した。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。（注）安息日とは、週の七日目。今の曜日でいうと土曜日。

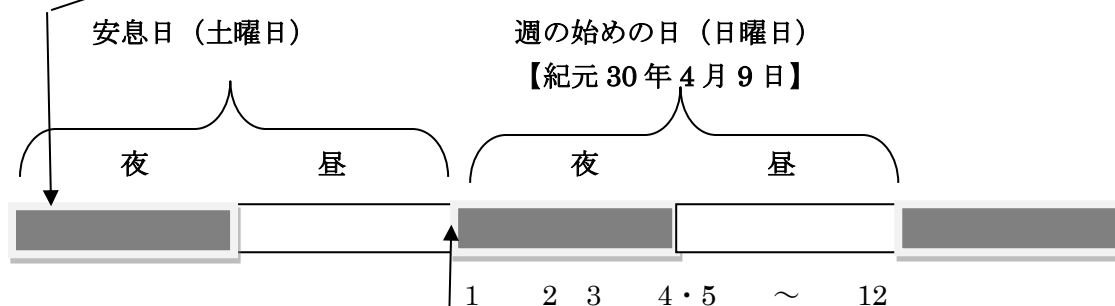
C) 墓の封鎖

イエスがかねてより復活を予告していたため、日没後、ユダヤ指導者層はローマ総督に依頼して、墓を封鎖した。このことは、弟子たちも女たちも知らなかった。なお、ユダヤの暦では、太陽が沈み、星が3つ見えたら、日付が変わり、「明るる日」となる。4月8日、週の七日目、安息日に入った。今の暦の感覚では、まだ金曜日の夜である。

マタイ 27：62～66 明るる日、すなわち備え日の翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラト（総督）のところに集まって、こう言った。「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていたとき、『わたしは三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと弟子たちが来て、彼を盗み出し、「死人の中からよみがえった」と民に言うかもしれません。そうすると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。」

ピラトは彼らに言った。「番兵を出してやろう。行って、できるだけしっかりと番をするがよい。」そこで彼らは行って番兵たちとともに石に封印をし、墓の番をした。

D) イエスの復活の日 12の出来事（1～4番目は夜の間、5～12番目は昼の間）



1. **香料の購入**

安息日（土曜日）の夕方が過ぎ、空に星が3つ見えてから、三人の女たちが香料を買いに行った。そのうちの二人は、その足で墓を見に行った。おそらく、そのとき、墓の園に大勢の人たちがいたので、二人の女は墓には近づかずに帰ったであろう。彼女たちは、なぜ大勢の人たちがいたのか、その理由は知らなかったと思われる。

マルコ 16：1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリアと（小）ヤコブの母マリアとサロメは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。

マタイ 28：1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方（始まりの頃）、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。

2. 墓の入口の石が動いた

夜、大きな地震が起こった。地が揺れ動く間に、墓の入口の石が転がされて、墓が開いた。石を転がしたのは、稲妻のように天から降って来た天使であった。その恐ろしさに兵士たちは体が硬直し、動けなくなった。

マタイ 28：2～4 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

この地震は、イエスが復活した瞬間を示すしるしであったと思われる。ただし、墓の入口の石を動かしたのは、イエスをそこから出すためではない。復活したイエスのからだは、肉や骨はもっているが、物体を通り抜けることができた。天使が石を転がしたのは、番兵たちに墓が空になったことを見せるため、また、ローマの封印も神の前には何の力もないことを示すためであった。

3. 兵士たちの逃亡

兵士たちは意識を取り戻し、その場から逃げた。ただし、兵営に帰ることはできなかった。封印を破られ、その犯人を捕らえることもできなかった彼らは、処罰されるからである。夜が明けるのを待って、ユダヤ人の祭司長たちのところにリーダー格の何人かが相談に行くことにした（→出来事の9番）

4. マグダラのマリアが一人で墓に来た

早朝まだ暗いうちに、マグダラのマリアが一人で墓に来た。墓の入口の石は転がされていて、墓の中をのぞくと何も無い。彼女はとっさに思ったであろう。「夜、墓の付近に大勢の人たちがいたのは、そのためだったのか」と。彼女は、あわてて弟子のペテロとヨハネのもとに走った。

ヨハネ 20：1～2a さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。それで、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、・・・

5. 他の女たちが墓に来た

マグダラのマリアが墓から去ってペテロたちのもとに走っているとき、入れ替わりに何人かの女たち（その中の二人は、もう一人のマリアとサロメ）が、香料を持って墓に来た。すると、墓の入口の石は転がされていた。墓の中に入ると、イエスの遺体はなく、まっ白な衣をまとった青年が一人、座っていた。天使であった。天使は、女たちにイエスがよみがえったと告げ、弟子たちにガリラヤに向かうように伝えなさいと告げた。女たちは震え上がり、墓を出て、そこから逃げ出した。

ルカ 24：1～3 週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。見ると、石が墓からわきに転がされていた。そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。

マルコ 16 : 2~8 そして、週の初めの日の早朝、日が昇ったころ、墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。墓の中に入ると、真っ白な衣をまとった青年が、右側に座っているのが見えたので、彼女たちは非常に驚いた。青年は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』と。」彼女たちは墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

6. ペテロとヨハネが駆け付けた

4番の出来事からの続き。マリアの知らせを受けて、ペテロとヨハネが墓に走って来た。マリアも、ペテロとヨハネの後を追って、墓に来た。

ヨハネ 20 : 2~10 (マリアは) 走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに行って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」

そこで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロより速かったので、先に墓に着いた。そして、身をかがめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。

彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。

(遺体の体に巻かれた亜麻布と、頭を包んだ亜麻布が、そのままの形で、あたかも遺体がそこからすり抜けたかのようにして、床にある)

そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。

彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。それで、弟子たちは再び自分たちのところに帰って行った。

7. 【イエスの現れ①】 マグダラのマリアにイエスが現れた

(1) ペテロとヨハネは墓から帰ったが、マリアは墓の前でたたずんで泣いた。泣きながら、墓の中を覗き込むと、二人の天使がいた。

ヨハネ 20 : 11~13 一方、マリアは墓の外にたたずんで泣いていた。そして、泣きながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。すると、白い衣を着た二人の御使いが、イエスのからだを置かれていた場所に、一人は頭のところに、一人は足のところに座っているのが見えた。彼らはマリアに言った。「女の方、なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私には分かりません。」

(2) このとき、イエスがマリアに現れた【イエスの現れ①】

ヨハネ 20：14～17 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」彼女は、彼が園の管理人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのであれば、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります。」イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り向いて、ヘブル語で「ラボニ」、すなわち「先生」とイエスに言った。イエスは彼女に言われた。「わたしにすぎりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

☆イエスは、この直後、天に昇り、天の幕屋の清め（ヘブル 9：11～12、23）をした。そして再び地上に戻り、8番の出来事に続く。

(3) マリアは、クレオパやほかの弟子たちが嘆き悲しんでいるところに行って、そのことを知らせたが、誰も信じなかった。

ヨハネ 20：18 マグダラのマリアは行って、弟子たちに「私は主を見ました」と言い、主が自分にこれらのことを話されたと伝えた。

マルコ 16：9～12a さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現された。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。マリアは、イエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんでいるところに行って、そのことを知らせた。彼らは、イエスが生きていて彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかった。それから、彼らのうちの二人（クレオパたち）が徒歩で田舎に向かっていたとき・・・（10番の出来事に続く）

8. 【イエスの現れ②】他の女たちにイエスが現れた

(1) マリアが墓から帰った後、入れ替わりに、他の女たちが再び墓に来た。一度は気が動転して墓から逃げ出したが、気を取り直して、もう一度、墓を見に来たのであった。彼女たちに再び天使が現れて前と同じことを伝えた。彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、弟子たちに知らせようと走りはじめた。

ルカ 24：4～8 （イエスの遺体がどこにあるのかわからないし、墓の園には誰もいない）そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くにきた。彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられ

たころ、主がお話しになったことを思い出さない。人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」彼女たちはイエスのことばを思い出した。

マタイ 28：5～8 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおりに、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。（遺体の体に巻かれた亜麻布と、頭を包んだ亜麻布が、そのままの形で、あたかも遺体がそこからすり抜けたかのようにして、床にある）

そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。」

彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。

- (2) 走り出して、まもなく、イエスが現れた【イエスの現れ②】。

マタイ 28：9～10 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。イエスは言われた。

「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

- (3) かくして、復活のイエスに出会った最初の証人マグダラのマリアに続き、ここでの2番目の証人たちも、女たちであった。彼女たちは、弟子たちに伝えた。

マルコ 16：8 に続く補足記事 彼女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間たちに短く伝えた。

- (4) ルカの福音書は、最初と2番目の証人たちについて、つぎのようにまとめて記している。

ルカ 24：9～12 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。しかし、ペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。

9. 兵士たちの報告

出来事 8 番目で女たちが仲間の弟子たちのところに向かったころ、兵士たちの内のリーダー格の何人かが、祭司長たちのところに行って、事件を報告した。

マタイ 28 : 11~15 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。そこで祭司長たちは長老たちとともに集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

10. 【イエスの現れ③】 エマオ途上で二人の弟子にイエスが現れた

マグダラのマリアからの報告を受けても信じなかったクレオパともう一人の弟子、この二人がエルサレムから出発して、エマオという村に向かった。その道すがら、復活のイエスが彼らに現われた。

ルカ 24 : 13~33a ところで、ちょうどこの日、弟子たちのうちの二人が、エルサレムから 60 スタディオン余り（約 11 km）離れた、エマオという村に向かっていた。彼らは、これらの出来事すべてについて話し合っていた。話し合ったり論じ合ったりしているところに、イエスご自身が近づいて来て、彼らとともに歩き始められた。しかし、二人の目はさえぎられていて、イエスであることが分からなかった。

イエスは彼らに言われた。「歩きながら語り合っているその話は何のことですか。」すると、二人は暗い顔をして立ち止まった。

そして、その一人、クレオパという人がイエスに答えた。「エルサレムに滞在していながら、近ごろそこで起こったことを、あなただけがご存じないのですか。」イエスが「どんなことですか」と言われると、二人は答えた。

「ナザレ人イエス様のことです。この方は、神と民全体の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。それなのに、私たちの祭司長たちや議員たちは、この方を死刑にするために引き渡して、十字架につけてしまいました。私たちは、この方こそイスラエルを解放する方だ、と望みをかけていました。実際、そればかりではありません。そのことがあってから三日目になりますが、仲間の女たちの何人かが、私たちに驚かせました。彼女たちは朝早く墓に行きましたが、イエス様のからだが見当たらず、戻って来ました。そして、自分たちは御使いたちの幻を見た、彼らはイエス様が生きておられると告げた、と言うのです。それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、まさしく彼女たちの言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

そこでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちが言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受け、それから、その栄光に入るはずだったのでありませんか。」

それからイエスは、モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。

彼らは目的の村の近くに来たが、イエスはもっと先まで行きそうな様子であった。彼らが、「一緒にお泊りください。そろそろ夕刻になりますし、日もすでに傾いています」と言って強く勧めたので、イエスは彼らとともに泊まるため、中に入られた。

そして彼らと食卓に着くと、イエスはパンを取って神をほめたたえ、裂いて彼らに渡された。すると彼らの目が開かれ、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は話し合った。「道々お話しくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。」二人はただちに立ち上がり、エルサレムに戻った。

11. 【イエスの現れ④】使徒ペテロにイエスが現れた

復活のイエスが現れたのは4回目であるが、11人の使徒の中で最初に見たのは、ペテロ。それ自体の記事はなく、ペテロに現れたとだけ分かるのは、次の箇所。

ルカ 24：33b～34 十一人とその仲間が集まって、「本当に主はよみがえって、シモンに姿を現された」と話していた。

（注）「十一人」とは使徒たちのこと。ただし、この集まりに参加していた使徒は10人、使徒たちの中でトマスだけはそこにいなかった。この集まりの出来事は、次の12番。

12. 【イエスの現れ⑤】10人の使徒たちにイエスが現れた

(1) 10人の使徒たちとその仲間が集まって、主イエスがよみがえったのではないかと話し合っているところに、クレオパともう一人の弟子の二人が急遽エマオ途上から引き返して来て、イエスが現れたことを報告した。それでも使徒たちの意見は一致しなかった。

ルカ 24：33～35 二人はただちに立ち上がり、エルサレムに戻った。すると、十一人とその仲間が集まって、「本当に主はよみがえって、シモンに姿を現された」と話していた。そこで二人も、道中で起こったことや、パンを裂かれたときにイエスだと分かった次第を話した。

マルコ 16：12～13 それから、彼らのうちの二人が徒歩で田舎に向かっていたとき、イエスは別の姿でご自分を現された。その二人も、ほかの人のたちのところへ行って知らせたが、彼らはその話も信じなかった。

(2) 仲間たちを帰し、使徒たち10人が食卓に着いた。そこにイエスが現れた【イエスの現れ⑤】。

マルコ 16：14 その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに現れ、彼らの不信仰と頑なな心をお責めになった。よみがえられたイエスを見た人たちの言

うことを、彼らが信じなかったからである。

ルカ 24:36~43 これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。

「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい（十字架刑で釘付けられた傷跡がある）。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっていたので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。そこで焼いた魚を一切れ差し出すと、イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。

ヨハネ 20:19~20 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

(3) イエスは約束（1回目）を与えた。

ヨハネ 20:21~23 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。

あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」（約束の内容＝派遣・聖霊の照明・使徒の権威）

(4) あとからトマスは聞いたが、信じなかった。

ヨハネ 20:24~25 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

出来事 8 番での、イエスの命令「ガリラヤに行きなさい」に対して・・・

トマスが信じなかったので、11人の使徒たちは、ガリラヤに向けて出発しなかった。

G) 新約聖書が記す「最も大切なこと」 コリント人への手紙第一 15章3～7節

私（使徒パウロ）があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであつて、次のことです。キリストは、聖書（旧約聖書）に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、またケファ（使徒ペテロ）に現れ（出来事の11番）、それから十二弟子（出来事の12番と13番）に現れたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました（出来事の15番）。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。

その後、キリストはヤコブ（イエスの弟）に現れ（出来事の16番）、それからすべての使徒たちに現れました（出来事の17番）。

H) 勧め

弟子たちは、その後、迫害を受け、社会的地位も財産も、そして命をも失っていきました。イエスの復活が彼らの作り話だったとしたら、そのような苦難に皆が耐えられるでしょうか。彼らの生き方が示すのは、イエスの復活が真実だったということです。あなたも、ぜひ、復活の主を信じて、永遠のいのちをお受けください。

参考文献

- COME&SEE Vol.3 “DIVINE REDEEMER” Arnold G. Fruchtenbaum, TH.D., PH.D.
- THE LIFE OF MESSIAH Vol.4, Arnold G. Fruchtenbaum, TH.D., PH.D.